

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「ソウルメイト・ファンタジア」

テーマ:「魔術師ギルド員なのに、ほとんど魔術が使えない美少女」

キャラクター

60

ストーリー

55

テーマ(設定)

50

文章力

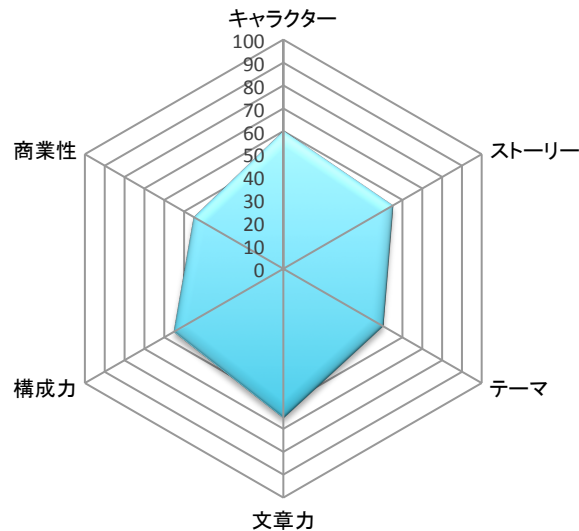
65

構成力

55

商業性

45



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- 物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・第一に設定の出過ぎに問題にあると思われる。対策として、作者様の思い描く世界観と似た世界観をもっている小説もしくは映画作品などを3作品程度読み込んでから、それらの良いところだけを抜き取って自分の作品の世界観にしようとお勧めする。少なくとも魔法と駐車場が理由なしに両方存在しているような世界観はおかしいと思われる。

・逆に「木刀」が出て来たことは非常に面白かった。魔法が一般的な世界で魔法が使えない美少女が木刀を武器に頑張るという設定はシルバのかわりに良い意味での泥臭さを感じることが出来てとても良かった。これに関して例えば「車」という設定について、例えば周りは空飛ぶ車や魔法的な乗り物で移動するのが一般的だが、シルバだけは魔法が使えないため魔法感ゼロのスクーターで追いつけるようになってくると、といった設定ならば説得力が出たかもしれない。また強いて言うならば魔術師ギルドが何の為に設立された団体で、なぜシルバがそこにいるのかについて更に深い背景があると分かり易くて良かったか。

・メリックがハードボイルド的なかわよさに溢れている一方、少しティナやトキウの「主人公の引き立てるために使われた」感ももったいなかった。

・戦闘シーンからキャラの描写まで、文章そのものについては全くの文句なし。ファンタジーラノベの手本となるような文章でもあるので、あとはこの文章を活かせるストーリーラインや設定があればほぼ商業作品に近いものが出せるのではないかと思います。

合計加点ポイント 0

総得点: 330 / 600

B方式総合得点: 18150 点